

PTA通信

平成28年12月21日発行 第3号

発行者 北海道えりも高等学校PTA

代表 PTA会長 佐々木 光政

TEL 01466-2-2405

文責: PTA教養部

今年の
研修会は...

町民体育館で 体力測定会

11月17日(木)に、町民体育館にてPTA研修会を行いました。町民体育館の幌岩さん監修の下で行った体力測定、参加者は保護者7名と教職員12名、合計19名でした。



重いなあ！
でも頑張るっ！



それでは
まず始めに
準備体操を...

幌岩さんの指示に従い、準備体操からスタートした体力測定会。怪我などをしないよう入念に準備にいそしむ参加者の皆さん...

適度に身体がほぐれたところで、握力測定。



「おっ！意外とあるね」「あら？全然ダメ～」などと、悲喜交々の感想が。

そして測定は徐々にハードなものとなっていくのであります。



気合い十分の山田先生



若いんで、体力には
自信ありますよ！

次は幅跳び。みなさん
次々と、良い記録を出し
ていきます！

そして腕立て伏せや、時間往復走などを行い、研修は終了。体力がどれくらいあるのかを知るとともに、いい汗をかいて楽しめた様子でした。ご参加いただきありがとうございました。



すごいジャンプ力です！

参加者の声



えりも小5年 早坂修吾くん

野球の少年団でもやったことがある種目もあったので、楽しかったです。

腕立て伏せとか、腹筋とか、すごくたくさんできる人がいて、すごいなと思いました。

自分もこれからたくさんトレーニングしたいです。つぎは5分間走もやりたいです！



PTAミニバレーボール大会

毎年恒例！

お待たせしました！毎年恒例のPTA ミニバレーボール大会を下記の日程で行います。季節柄、何かとお忙しい時期とは思いますが、是非多数の皆様のご参加をお待ちしています。

日時：1月19日(木)

場所：本校体育館



平成28年度北海道高等学校 PTA連合会日高支部研修会 「野球でこぼこ道」

えりも高等学校
学校長 三浦真児

11月4日(金)に静内高等学校にて、平成28年度北海道高等学校PTA連合会日高支部研修会が行われました。会場には、日高支部の各高校の保護者の方々に加え、静内高校の全生徒が参加していました。講師は日本野球機構(NPB)審判技術委員の山崎夏生さん。長年プロ野球パリーグの審判をされたご経験を基に、進路選択や職業について、次のようなお話をいただきました。本校からは、私と佐々木PTA会長だけの参加でしたが、山崎さんのお人柄が伝わる、とてもいい講演でした。



好きな野球を仕事にしたい

新潟に生まれ中学高校と野球を続け、進学した北海道大学でも野球部に入って投手を務めていました。プロを目指したこともありましたが、けがをしたこともあり、卒業後はスポーツ新聞社に入り、記者という形で野球に関わろうとしました。ところが配属されたのは営業部。それなりにやりがいもあったのですが、ある日、審判という仕事があると気づき、すぐにパリーグ会長に直談判に行きました。当然のことですが、すぐ追い返されました。プロ野球の審判になるには、退団した選手、実績を積んだアマ審判、公募という大きく3つの道があり、相当な狭き門です。私はここであきらめず、既に家族もありましたが、退路を断とうと新聞社を辞め、ルールを暗記し、現役審判に基本を覚えてもらい、もう一度、会長に会いに行きました。あきれていましたが、熱意が通じたのでしょうか、特例として審判部のトレーニングへの参加を認めてもらいました。

100点しか許されぬ世界

プロ野球界での最低年俸(160万円)から審判人生が始まりました。一家4人が食べていくのに10年間、数々

のアルバイトをこなしました。毎日、へとへたになって生きていましたが、絶対、皆と同じ舞台に立ってやろうという思いで乗り越えました。審判の魅力は、球場の大群衆の中でジャッジができること、選手と対等の立場で野球に向かえること、一流の野球を目の前で見られることにあります。しかし、ジャッジは常に100点しか許されません。一度でもミスジャッジをすれば、0点です。容赦なく罵声を浴びせかけられます。

私は凡人です。いざという時、80%の力しか出せないとしたら、人の120%の技量を身に付けるしかないと決め、人一倍練習に打ち込みました。シーズン前のキャンプの時は、誰よりも早くブルペンに入り、最後のピッチャーの練習が終わるまでジャッジしていました。ようやくプロの技量をつかんだと思えるようになるのに15年かかりました。

家族の支えがあってこそ

メジャーリーグでは審判に文句を言えば退場です。年間の退場宣告は、メジャーリーグでは300件以上ありますが、日本では5件くらいです。私は、ロッテ監督だった金田正一さんから楽天の山崎武司さんまで17回退場を言い渡しました。これは審判として日本最多記録です。

サード塁審をしていた試合でポール際の打球をホームランと判定して、日本ハムの大島監督から猛烈な抗議を受けました。試合を決める一打でした。テレビの映像でミスジャッジと確信している監督は当然一歩も譲りません。23分間の中断の末、退場を命じました。球場全体から大ブーイングです。その日のプロ野球ニュースで流された映像は、明らかにファールを示していました。翌日は同じ対戦で、球審が当たっていました。私が入場したとたん、「帰れ、帰れ、山崎」の大コールです。ここでまたミスすれば、クビは間違いないという状況でした。とにかく全力でやったことだけ覚えています。後で聞いたことですが、普段はそんなことはしない息子まで、妻と一緒にテレビの前で祈っていたそうです。自宅に帰り、玄関で家族の顔を見た



とたん、涙があふれ出て止まりませんでした。私のプロ野球審判人生は谷の連続でしたが、多くの人に支えられて何とか続けてきました。でこぼこ道だったからこそ学べたことがたくさんあります。55歳で定年となりましたが、日本野球機構(NPB)より、審判技術委員にならないかと言われ、現在はプロ野球審判の育成をしております。でこぼこ道でも、一生懸命やっていたら、誰かが見ていてくれるものだなあと考えています。



